

MENU

SEARCH

INDEX

DETAIL

JAPANESE

LEGAL
STATUS

1 / 1

PATENT ABSTRACTS OF JAPAN

(11)Publication number : 2002-177127

(43)Date of publication of application : 25.06.2002

(51)Int.Cl.

A47G 29/20
G06F 17/60

(21)Application number : 2000-377322

(71)Applicant : KAWABE SAORI

(22)Date of filing : 12.12.2000

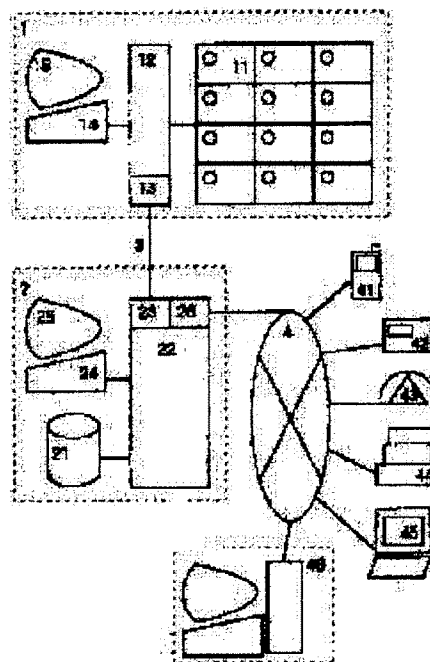
(72)Inventor : KAWABE SAORI

(54) HOME DELIVERY LOCKER SYSTEM

(57)Abstract:

PROBLEM TO BE SOLVED: To allow many persons without limited to the dwellers of a specific multi-dwelling house to use a home delivery locker system by installing a home delivery locker in a station or a store.

SOLUTION: The system the home delivery locker 11 for putting in/out a package, an input means 14, a display means 15, a means for storing information on a recipient, a means for storing information on the using state of the home delivery locker, a means 21 for storing information to be the source of a message to be transmitted, a means 26 for transmitting the message to a public line 4 and a controlling and managing means 22.



(19) 日本国特許庁 (J P)

(12) 公開特許公報 (A)

(11) 特許出願公開番号

特開2002-177127

(P2002-177127A)

(43) 公開日 平成14年6月25日 (2002.6.25)

(51) Int.Cl. ⁷	識別記号	F I	テームコード* (参考)
A 4 7 G 29/20		A 4 7 G 29/20	3 K 1 0 0
G 0 6 F 17/60	1 1 4	G 0 6 F 17/60	1 1 4

審査請求 未請求 請求項の数 3 O L (全 7 頁)

(21) 出願番号 特願2000-377322 (P2000-377322)

(22) 出願日 平成12年12月12日 (2000.12.12)

(71) 出願人 300046348

河辺 さおり

神奈川県藤沢市湘南台 1-10-1 湘南台
分譲共同ビル410

(72) 発明者 河辺 さおり

神奈川県藤沢市湘南台 1-10-1 湘南台
分譲共同ビル410

(74) 代理人 100094570

弁理士 ▲高▼野 俊彦

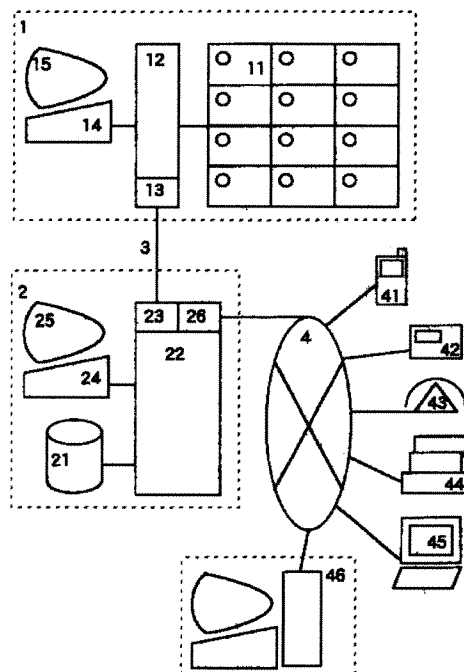
Fターム(参考) 3K100 CA01 CA11 CA31 CA47 CA51
CD01 CD03

(54) 【発明の名称】 宅配ロッカーシステム

(57) 【要約】 (修正有)

【課題】 駅や店舗などに宅配ロッカーを設置し、特定の集合住宅の居住者などに限定せず、多数の人が宅配ロッカーシステムを利用できるようにする。

【解決手段】 荷物を出し入れする宅配ロッカー11と、入力手段14と、表示手段15と、受取人に関する情報を記憶する手段と、宅配ロッカーの使用状態の情報を記憶する手段と、送信するメッセージの元となる情報を記憶する手段21と、メッセージを公衆回線4に送信する手段26と、制御・管理手段22とを有する。



【特許請求の範囲】

【請求項1】 荷物を出し入れする宅配ロッカーと、入力手段と、表示手段と、受取人に関する情報を記憶する手段と、宅配ロッカーの使用状態の情報を記憶する手段と、送信するメッセージの元となる情報を記憶する手段と、メッセージを公衆回線に送信する手段と、制御・管理手段とを有し、前記制御・管理手段が、入力手段において入力された受取人に関する情報を記憶手段から検索するステップと、宅配ロッカーの使用状態の情報を表示するステップと、宅配ロッカーを開錠するステップと、宅配ロッカーを施錠するステップと、宅配ロッカーの預け入れ及び取り出し情報を記憶するステップと、記憶手段から受取人が登録したメッセージ受信方式を検索するステップと、メッセージの元となる情報を検索するステップと、メッセージを構成するステップと、メッセージを公衆回線に送信するステップとを有することを特徴とする宅配ロッカーシステム。

【請求項2】 さらに、宅配物及び／又は送付人の情報を記憶する手段を有することを特徴とする請求項1記載の宅配ロッカーシステム。

【請求項3】 さらに、課金手段を有することを特徴とする請求項1または2記載の宅配ロッカーシステム。

【発明の詳細な説明】

【0001】

【発明の属する技術分野】本発明は宅配ロッカーシステムに関する。さらに詳しくは、宅配ロッカーに宅配荷物が預けられた時に、あらかじめ登録された方式のメッセージを公衆回線により自動的に送信することによって、宅配物が預けられたことを受取人に自動的に通知することを特徴とする宅配ロッカーシステムに関する。

【0002】

【従来の技術】近年、郵便小包や宅配便などの小荷物宅配サービスは広く利用されている。特に通信販売における商品受け取り手段として利用されることが多い。

【0003】しかしながら、小荷物宅配サービスによって荷物を受け取るためには、受取人は配達時に在宅していなければならない、共働きや一人暮らしなど不在がちな世帯においては宅配サービスを利用する際の障害となっている。

【0004】また、受取人が不在である場合、宅配業者は再配達を行っているが、再配達を行うためにはコストがかかる。さらに、受取人も一定の時間に電話で再配達の日時を連絡しなければならないという面倒な手間がかかる。

【0005】このため、受取人が不在であっても荷物を受け取ることができる宅配ロッカーの需要は高く、新たに建築される集合住宅などでは、あらかじめ宅配ロッカーが備え付けられている物件が増えている。

【0006】

【発明が解決しようとする課題】しかしながら、一戸建てや既存の集合住宅などにおいては、新たに宅配ロッカーシステムを設置することは、設置場所、建築物の構造、費用などの点で極めて難しい。

【0007】なぜなら、宅配ロッカーは集合住宅の玄関ホールに設置され、多数の居住者が共同で使用することを前提としているため、大きな構造物となり、設置場所を確保できる広さを持つ玄関ホールのように極めて限定された場所にしか設置することができない。費用的にも高価になるという問題点がある。共同住宅の場合は積立金などで設置費用を捻出できる場合もあるが、一戸建て住宅に設置し個人使用に限定するには、費用がかかるという問題点がある。

【0008】一方、従来の宅配ロッカーは、荷物が預けられたことを受取人に通知する方法として、レシート状の紙片や宅配ロッカーの鍵を受取人の郵便受けに入れる方法が採用されている。また、マンション各戸内のインターホンに表示する方法が採用されている場合もある。

【0009】しかしながら、レシート状の紙片や宅配ロッカーの鍵を受取人の郵便受けに入れる場合では、郵便受けが、宅配ロッカーと同じ玄関ホール内に隣接されていない制約がある。また、レシート状の紙片は小さいため、郵便受けに入れた場合、他の郵便物を紛れやすく、紛失しやすいという致命的欠陥がある。

【0010】また、各戸内のインターホンに表示する場合では、宅配ロッカーを管理するシステムとインターホンなどを管理するシステムとが連携している必要がある。

【0011】上記の問題点を有する従来の宅配ロッカーは、現実的にはあらかじめ宅配ロッカーを設置することを前提として設計されている新築マンションにしか設置できないため、宅配ロッカーが設置されていないマンションや個人住宅では利用できず、利用者が極めて限られていた。

【0012】本発明は、上記の問題点を解決し、宅配ロッカーを、駅、店舗、ガソリンスタンドなどに設置することができ、誰でも制約なく利用できる画期的な宅配ロッカーシステムを提供することを目的とする。

【0013】

【課題を解決するための手段】すなわち、本発明は、下記の宅配ロッカーシステムを提供するビジネスメソッドに関連した特許発明である。

【0014】荷物を出し入れする宅配ロッカーと、入力手段と、表示手段と、受取人に関する情報を記憶する手段と、宅配ロッカーの使用状態の情報を記憶する手段と、送信するメッセージの元となる情報を記憶する手段と、メッセージを公衆回線に送信する手段と、制御・管理手段とを有し、前記制御・管理手段が、入力手段において入力された受取人に関する情報を記憶手段から検索

するステップと、宅配ロッカーの使用状態の情報を記憶手段から検索するステップと、宅配ロッカーの使用状態の情報を表示するステップと、宅配ロッカーを開錠するステップと、宅配ロッカーを施錠するステップと、宅配ロッカーの預け入れ及び取り出し情報を記憶するステップと、記憶手段から受取人が登録したメッセージ受信方式を検索するステップと、メッセージの元となる情報を検索するステップと、メッセージを構成するステップと、メッセージを公衆回線に送信するステップとを有することを特徴とする宅配ロッカーシステム。

【0015】さらに、宅配物及び／又は送付人の情報を記憶する手段を有することを特徴とする請求項1または2記載の宅配ロッカーシステム。

【0016】さらに、課金手段を有することを特徴とする請求項1、2または3記載の宅配ロッカーシステム。

【0017】本発明は、宅配ロッカーに宅配荷物が預けられた時に、あらかじめ登録された方式のメッセージを公衆回線により自動的に送信することによって、宅配物が預けられたことを受取人に自動的に通知すること

を特徴とする宅配ロッカーシステムである。

【0018】本発明により、宅配ロッカーを設置されていない住戸に居住する人も、自宅近くの宅配ロッカーにより、宅配システムを利用できる。また、宅配ロッカーがすでに設置されているマンションにおいても、確実な通知方法が約束される。

【0019】このシステムはあらかじめ利用できる会員を登録しておくことも出来る。その場合はあらかじめ登録したクレジットカードにて、宅配料を送付人もしくは受取人に課金することが出来る。登録された銀行口座での引き落としや、1ヶ月毎に請求書を発送して課金することもできる。また、コインロッカーやコインパーキングメーターのように、課金手段として現金課金装置を設置してもよい。

【0020】宅配ロッカーに宅配物が預けられている時間又は日数の応じて、課金料金を決定すれば、受取人において早く宅配物を取り出すための動機付けとなり、利用可能な空の宅配ロッカーの数を担保し、本発明の宅配ロッカーシステムを効率良く運営できる。

【0021】本発明は、受取人が発注する通信販売においては、配達されるべき宅配ロッカーを指定できるので極めて便利である。しかしながら、贈り物などのように、会社間、個人間の宅配物送受配のやりとりにおいても、配達前に、受取人に宅配物の内容や送付人の情報を伝達することにより、受取人において受け取るべき宅配ロッカーを指定することが出来る。この場合、送られて困るような宅配物においては、受取人において、配達を拒否することも可能である。従来の宅配においては、送り主が、送る際に、送る場所(住所)、配達時間などを指定していた。しかしながら、この方法は極めて不便である。なぜなら、受取人が複数の住居を持つ場合や、勤

務先若しくは自宅、自宅若しくは実家のどちらに送ればよいのか判断できないからである。上記のように、本発明の宅配ロッカーシステムは、他人から宅配物が送られる際にも、宅配物を実際に受け取る人が最も都合のよい条件を選択できるという利点もある。特に、生ものなど配達条件(配達されるまでの時間)に制約がある場合に、極めて都合がよいシステムである。具体的には、本発明において、受取人に、宅配物及び／又は送付人の情報を伝達し、受取人に宅配すべき宅配ロッカーを指定するステップ(逆指定便、逆配便など:商標登録出願検討対象)を、さらに有してもよい。

【0022】利用できる宅配ロッカーは、受取人が好きな場所を指定できるように空いている宅配ロッカーを表示して、受取人にて指定させる方法を採用できる。

【0023】受取人に伝えるメッセージは、宅配ロッカーに宅配荷物が預けられたことを受取人に伝達する情報であり、その方式としては、音声、文字、画像などが挙げられる。メッセージの送信手段は限定されないが、携帯電話、パーソナルコンピューター、モバイル機器等の電子メール手段が好ましい。

【0024】本発明により、駅、店舗、これらに隣接する場所、ガソリンスタンド(自家用車による運搬に便利)など、従来の宅配ロッカーが設置され得なかった場所に、宅配ロッカーを設置し、多数の人が宅配ロッカーシステムを利用することが出来るようになる。

【0025】例えば、出張の際に、重い荷物を、出張先の企業、ホテルには直接送らずに、途中の駅などにて受け取りたい場合には、この宅配ロッカーシステムが極めて便利である。

【0026】受取人のみならず、送り主が宅配ロッカーに荷物を入れて送ることも可能である。従来は、宅配物を送る場合は、必ず人を仲介して行なわれていた。本発明の宅配ロッカーシステムは人を直接的に仲介せず

に送受宅配ができるので、時間を気にすることなく、いつでも気軽に宅配物のやりとりが出来る革命的な物流システムである。

【0027】

【発明の実施の形態】以下に具体的な態様を説明する。本発明を行なうためには、技術的には公知の技術的手段の組み合わせまたは改良により達成できる。したがって、システムやロッカーの調製もコスト的に有利である。

【0028】図1は本発明の宅配ロッカーシステムの構成例を示した概略図である。

【0029】図1において、1は宅配ロッカー部であり、宅配ロッカー(11)、宅配ロッカー制御システム(12)、回線接続装置(13)、入力装置(14)、表示装置(15)などで構成される。2は管理システム部である。記憶装置(21)、管理システム(22)、回線接続装置(23)、入力装置(24)、表示装置

(25)、公衆回線接続装置(26)などで構成される。3は宅配ロッカー部(1)と管理システム部(2)を接続する通信回線である。4は公衆回線であり、公衆回線(4)を通じたメッセージの送信先としては、例えば、携帯電話または簡易型携帯電話(PHS)(41)、ページャー(ポケットベル(登録商標))(42)、電話(43)、ファクシミリ(44)、パーソナルコンピュータ(45)、及び最終送信先へのメッセージを中継・保管するメッセージサーバシステム(46)などが挙げられる。

【0030】宅配ロッカー部(1)と管理システム部(2)は、図1に記載されたように遠隔地に設置され、通信回線で接続された2つのシステムであっても良く、また、1つの合体したシステムであっても良い。

【0031】1つの合体したシステムの場合、宅配ロッカー制御システム(12)と管理システム(22)、入力装置(14及び24)、表示装置(15及び25)は共用とすることもできる。宅配ロッカー制御システム(12)及び管理システム(22)はコンピュータシステムであり、宅配ロッカー制御システム(12)は宅配ロッカー(11)の制御及び入力の受け付けを行い、管理システム(22)は入力された情報の記憶、照合、メッセージの送信を行う。宅配ロッカー制御システム(12)と管理システム(22)は双方向に通信することができ、特に遠隔地に設置されている場合は、通信回線(3)を通じて通信を行う。

【0032】荷物を預かる箱である宅配ロッカー(11)は、従来の宅配ロッカーとして使用されている宅配ロッカーと同等のものが使用できる。

【0033】回線接続装置(13)は、宅配ロッカー制御システム(12)に付属し、遠隔地に設置された管理システム部(2)と通信するための通信回線(3)と接続するための装置である。

【0034】入力装置(14)としては、例えば、数字を入力するボタンと補助的に使用する数個のボタンを有する入力盤、前記のボタンに加えて文字を入力できるボタンを有する入力盤、キーボード、タッチパネルを持つ表示装置と兼用の入力装置、外部情報保存媒体に保存された形状や電子情報等の読取装置、音声入力装置、個体判別可能な身体的特徴の読取装置等が挙げられ、上記の装置は単独でも、組み合わせて用いることもできる。

【0035】外部情報保存媒体としては、例えば、穿孔カード、凹凸カード、磁気カード、ICカード、鍵、電子鍵、磁気ディスクや光ディスク等のディスク状媒体、などが挙げられる。

【0036】表示装置(15)としては、例えば、CRT、液晶表示装置、タッチパネルを持つ入力装置と兼用の表示装置などが挙げられる。

【0037】また、荷物預け入れに使用する入力装置及び表示装置と、荷物受け取り(取り出し)に使用する入

力装置及び表示装置は別個の装置であっても良いし、共用する1つの装置であっても良い。

【0038】管理システム部(2)は、宅配ロッカー部(1)に内臓、又は遠隔地に設置され、遠隔地に設置される場合は宅配ロッカー部(1)とは通信回線(3)で接続されており、公衆回線接続装置(26)を通じて公衆回線(4)と接続される。

【0039】記憶装置(21)は管理システム(22)に接続され、宅配ロッカーの状態の情報、預け入れられている宅配物(荷物)の情報、受取人の情報(受取人を特定する情報、受取人が希望するメッセージの種類に関する情報及び一般的な顧客情報など)、送信するメッセージの元となる情報(雛型)などを保持する。送付人の情報を保持することも出来る。また、宅配ロッカー制御システム(12)に別途記憶装置を接続し、宅配物の情報、送付人の情報、受取人の情報を分散させることもできる。

【0040】回線接続装置(23)、入力装置(24)及び表示装置(25)は、宅配ロッカー部(1)の回線接続装置(13)、入力装置(14)表示装置(15)と同様の手段、装置を使用できる。

【0041】通信回線(3)は、宅配ロッカー部(1)と管理システム部(2)が遠隔地に設置された場合に情報を送受信するための回線であり、その種類は特に限定されず、専用回線であっても、公衆回線であってもよい。

【0042】公衆回線(4)は、例えば、電話回線、インターネット通信専用回線など、公共の利用に供されている通信回線であり、有線、無線の別を問わない。

【0043】メッセージを受信する装置は、公衆回線に送信したメッセージを受信または閲覧できるものであれば特に限定されない。例えば、音声メッセージを受信できる装置としては、携帯電話または簡易型携帯電話(PHS)(41)、電話(43)、留守番電話サービスなどのメッセージサーバシステム(46)、文字メッセージを受信できる装置としては、携帯電話または簡易型携帯電話(PHS)(41)、ページャー(ポケットベル)(42)、パーソナルコンピュータ(45)、電子メールやホームページ用のメッセージサーバシステム(46)、画像メッセージを受信できる装置としては、ファクシミリ(44)、パーソナルコンピュータ(45)、ホームページ用のメッセージサーバシステム(46)などが挙げられる。

【0044】請求項1に記載された各要件は、図1においては下記の各項目で表わされている。

荷物を出し入れする宅配ロッカー: 宅配ロッカー(11)

入力手段: 入力装置(14)、入力装置(24)

表示手段: 表示装置(15)、表示装置(25)

受取人に関する情報を記憶する手段: 記憶装置(21)

宅配ロッカーの使用状態の情報を記憶する手段：記憶装置（21）

送信するメッセージの元となる情報を記憶する手段：記憶装置（21）

メッセージを公衆回線に送信する手段：公衆回線接続装置（26）

制御・管理手段：宅配ロッカー制御システム（12）、管理システム（22）

【0045】また、制御・管理手段には、入力手段において入力された受取人に関する情報を記憶手段から検索するステップと、宅配ロッカーの使用状態の情報を記憶手段から検索するステップと、宅配ロッカーの使用状態の情報を表示するステップと、宅配ロッカーを開錠するステップと、宅配ロッカーを施錠するステップと、宅配ロッカーの預け入れ及び取り出し情報を記憶するステップと、記憶手段から受取人が登録したメッセージ受信方式を検索するステップと、メッセージの元となる情報を検索するステップと、メッセージを構成するステップと、メッセージを公衆回線に送信するステップとを有するコンピュータソフトウェアが含まれる。

【0046】また、上記の他、宅配ロッカーの使用回数や時間数などの課金情報を記憶する手段や、現金精算装置やクレジットカード番号や口座番号等の入力装置など、荷物取り出し時に宅配ロッカーの使用料を徴収するための装置を追加することもできる。

【0047】

【実施例】以下に、本発明の宅配ロッカーシステムの利用例を図1に従って説明する。

【0048】利用者（以下、会員）は、まず宅配ロッカーシステム提供者（以下、業者）に会員登録を行う。業者が提供するメッセージ送信手段のうち、携帯電話の追加サービスである電子メールによるメッセージ送信を選択し、業者が提供する宅配ロッカーのうち、自宅近隣のコンビニエンスストアに設置された宅配ロッカーを利用するとの条件で会員登録する。業者は会員番号及び暗証番号を発行し、会員に通知する。

【0049】会員は、通信販売によって商品を購入する際、配達先として上記の宅配ロッカーを指定するとともに、宅配ロッカーシステムの会員番号を通知する。通信販売会社は伝票に配達先として宅配ロッカーを、付加情報として会員の会員番号を伝票に記載して、宅配業者に荷物の配送を委託する。

【0050】商品の配送を依頼された宅配業者は、伝票に記載された宅配ロッカー部（1）の入力装置（14）に、通知された会員番号を入力する。宅配ロッカー制御システム（12）は入力された会員番号を管理システム（22）に送信し、管理システム（22）は記憶装置（21）から該当する会員番号が登録されているか検索する。会員番号が登録されている場合、管理システム（22）はその旨を宅配ロッカー制御システム（12）

に送信する。これを受信した宅配ロッカー制御システム（12）は、空いている宅配ロッカー（11）を解錠し、宅配業者は宅配ロッカー（11）に荷物を預ける。

【0051】荷物を預け入れられたら、宅配ロッカー制御システム（12）は管理システム（22）にその旨を送信する。管理システム（22）は記憶装置（21）中の会員の情報から、会員が電子メールによるメッセージを希望するとの情報を取得し、電子メール形式のメッセージを構成する。管理システム（22）はメッセージの元となる情報（雛型）と受取人に関する情報など構成されたメッセージを電子メールとして公衆回線接続装置（26）を通して送信する。

【0052】会員は外出先で携帯電話に電子メールを受信し、自分宛の荷物が預けられたことを知ることができたので、帰宅途中、自宅近隣のコンビニエンスストアに設置された宅配ロッカー部（1）に立ち寄り、入力装置（14）から会員番号及び暗証番号を入力する。宅配ロッカー制御システム（12）は入力された会員番号及び暗証番号を管理システム（22）に送信し、管理システム（22）は記憶装置（21）から該当する会員番号が登録されているか検索する。会員番号が登録されている場合、暗証番号を検証し、暗証番号が正しい場合、会員宛の荷物が預けられているかを検索する。会員宛の荷物が預けられている場合、管理システム（22）はその旨を宅配ロッカー制御システム（12）に送信する。これを受信した宅配ロッカー制御システム（12）は、会員宛の荷物が預けられた宅配ロッカー（11）を解錠し、会員は宅配ロッカー（11）から荷物を受け取る。

【0053】このように会員は、宅配ロッカーシステムを利用することにより、自宅には不在であっても、通信販売によって購入した商品を宅配荷物として受け取ることができる。

【0054】その他の利用例

（1）東京にオフィスがある甲は、大阪にて取引先企業内でミーティングのため、大量の資料を持参しなければならない。そこで、本発明のシステムにより、新大阪駅構内にある宅配ロッカーを指定して、資料を入れたポストンバックを、宅配業者に至急の配達を発送する。これにより、身軽に大阪出張を行ける甲は、東京駅付近に途中で別の取引先に寄り、仕事を済ませた後、新幹線にて新大阪に向かい、宅配ロッカーから発送した荷物を取り出し、取引先企業内のミーティングに向かうことが出来る。ミーティング終了後、再び、新大阪駅構内の宅配ロッカーに荷物を入れ、時間をかけず極めてスピーディーに東京のオフィスにポストンバックを発送し、広島にある別の取引先とのミーティングに向かうことが出来る。従来は、極めて重いミーティング資料を持参しているため、身軽に他の取引先を経由することができないし、至急のミーティングの時に、新幹線の中から必要な荷物を駅に送るように指示することができない。

【0055】(2) 海外出張に出かけた乙は帰国の飛行機内にて、宅配システムの航空会社のおみやげ(オレンジ)をオフィスの秘書に送る。オフィスは夏休みのため、乙の秘書の丙は帰省している可能性があり、新鮮なオレンジを自宅か帰省先のどちらに送るべきか迷ったため、本システムを利用する。送付人と宅配物の内容に関し携帯電話にて連絡を受けた丙は、帰省していたため、帰省先から自宅に戻る途中に、宅配物を受け取ることを決め、自宅近くの駅の宅配ロッカーを指定する。自宅に戻る予定が1日遅れたため、駅構内に設置された宅配ロッカーに表示された超過料金を入れ、宅配物を取り出す。従来は、長期の不在先に宅配物が届けられ、タイムリーな配達ができることがない。

【0056】(3) 電車でゴルフに行く甲は、ゴルフ終了後にゴルフ場にて来週行う予定の次のゴルフ場へゴルフバッグを発送する。しかしながら、そのゴルフ場は料金受取人払い(着払い)の宅配システムしか行っていない。したがって、従来は帰る途中に駅近くのコンビニエンスストアに寄り、宅配料金を支払って送っていたが、極めて面倒である。本発明のシステムにより、宅配ロッカーをゴルフ場内に置くことにより、ゴルフ場としても宅配物発送や料金の取り扱いの手間(人手)をかけることなく、プレーする人に優れたサービスを提供することが出来る。また、ゴルフバッグを送るプレーヤーも、スピーディーにゴルフバッグを送ることができるので大変便利であり、他の同伴プレーヤーと一緒に帰る場合も迷惑をかけることなく、送り先を知られることもなく、どこにでも発送できる。さらに、コンビニエンスストアに設置される宅配ロッカーを使用するとしても、極めてスピーディーに利用することができ、次にプレーするゴルフ場に発送できる。従来は、コンビニエンスストアのレジに込んでいる場合、大きなゴルフバッグを抱えてレジの前に並ばなければならない、他の客の迷惑にもなっていた。また、レジでの手続きに時間がかかり、そのため、予定した電車に乗れずに帰宅時間が遅れイライラするという大きな問題があった。

【0057】

【発明の効果】本発明の宅配ロッカーシステムは、宅配荷物が預けられたことを、通信回線を通じて受取人に通知するため、設置場所が特定の集合住宅などに限定され

ず、従来宅配ロッカーを設置することができなかったコンビニエンスストア、ガソリンスタンド、スーパーマーケットなどの店舗、駅、地下街などの通路、広場等の場所にも設置することができる。また、受取人は外出先でも荷物が宅配ロッカーに預けられたことを知ることができる。

【0058】本発明により、従来宅配ロッカーを利用することができなかった多くの人も宅配ロッカーを利用することができるようになり、宅配業者においては再配達の手間及びコストを削減することができる。また、人を直接介さずに荷物のやりとりができるので、宅配便業者を装ったマンション強盗を防止できる。

【0059】本発明の宅配ロッカーシステムは、その利用方法により従来の宅配ロッカー、宅配システムの不便、不都合を解決できる革命的な物流システムである。

【図面の簡単な説明】

【図1】宅配ロッカーシステムの構成例を示した概略図である。

【符号の説明】

- 1 宅配ロッカー部
- 11 宅配ロッカー
- 12 宅配ロッカー制御システム
- 13 回線接続装置
- 14 入力装置
- 15 表示装置
- 2 管理システム部
- 21 記憶装置
- 22 管理システム
- 23 回線接続装置
- 24 入力装置
- 25 表示装置
- 26 公衆回線接続装置
- 3 通信回線
- 4 公衆回線
- 41 携帯電話または簡易型携帯電話(PHS)
- 42 ページャー(ポケットベル)
- 43 電話
- 44 ファクシミリ
- 45 パーソナルコンピューター
- 46 メッセージサーバシステム

【図1】

